

平成 23 年度東京都写真美術館コレクション展

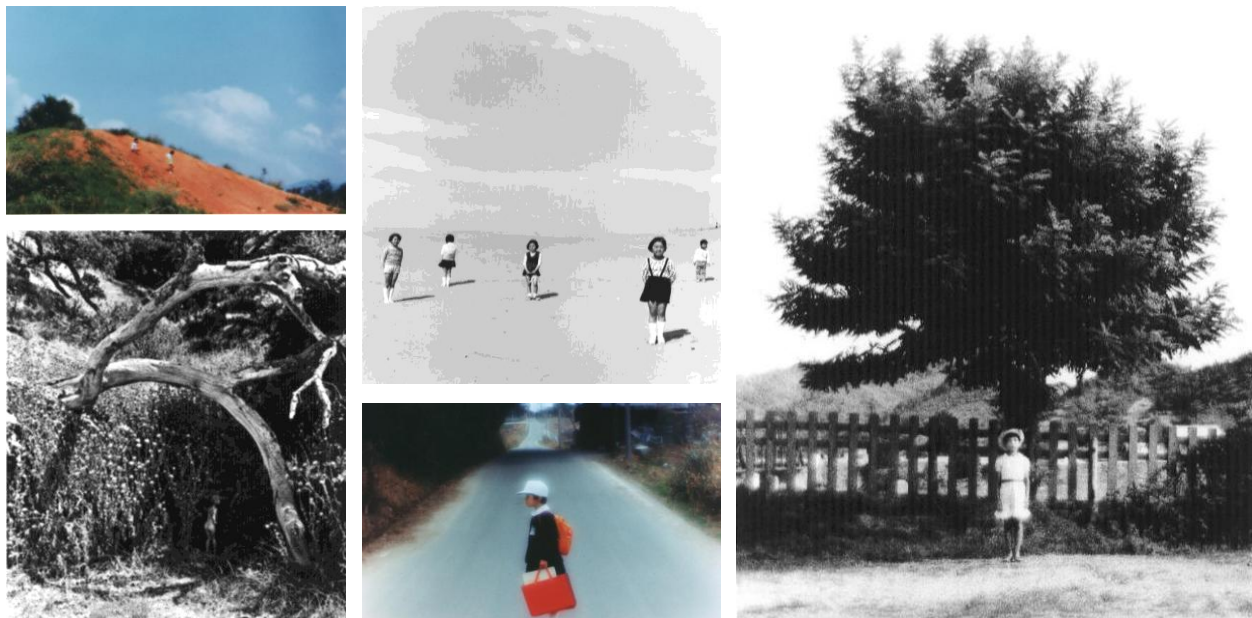
こどもの情景 原風景を求めて

Photographs of Children - The child within us

開催期間：2011 年 9 月 24 日（土）～12 月 4 日（日）

会場：東京都写真美術館 3 階展示室

主催：東京都 東京都写真美術館／協賛：凸版印刷株式会社／協力：講談社



左上) ●植田正治「白い風」より 1981 年 中上) 植田正治「風景の光景」より 1970-1980 年 左下) ●ウイン・パロック 子供と未知の世界 1955 年 中下) 植田正治「白い風」より 1981 年 右) ●小関庄太郎 アカシアと少女 1940 年

■ 展覧会概要

東京都写真美術館のコレクション展は、年間を通じたテーマを設定し、収蔵作品約 2 万 5000 点から選りすぐられた名品の数々で構成されています。**平成 23 年度は「こどもの情景」をテーマに 3 期にわたって開催しています。**写しだされた時代の姿やこどものイメージの変遷を、写真の技法や国内外の作家の個性とともにご紹介します。

3 期目となる「**こどもの情景 原風景を求めて**」では、こどもが登場する写真、こどもの世界を反映した写真がもつ共通性や関連性に着目し、たくさんの「情景」に分類した構成で作品をご紹介します。

写真家たちは、こどもの集まる場所に引き寄せられ、こどもとの出会いをとらえ、走り回り、遊びに夢中になるこどもの姿、純粋な表情や瞳の輝きに魅了されます。被写体としてのこどもは、生のエネルギーであり、写真家の撮影意欲や想像力を触発するものです。時代も撮影場所も様々な「こどもの情景」は、いくつもの共通する感覚や感情でつながっています。

写真を見る私たちにとって、見知らぬこどもの姿、知らないはずの光景に懐かしさを覚えるのはなぜでしょうか。私たちはそこに自分自身のこどもの頃の記憶やこどもと過ごした思い出を重ねて見ているのではないのでしょうか。だれもがむかしはこどもだった。私たちは、その当たり前のことを忘れてしまいがちです。たくさんの情景のなかを旅するように会場をまわってみてください。そこでは、あなた自身の分身と出会い、忘れてしまった風景を見つけることができるかもしれません。こどもをめぐる写真表現をたどることは、心の原風景をさがすことでもあるのです。

■展示構成

本展は、こどもが登場する写真、こどもの世界を反映した作品を、18 (予定) の「情景」に分類して展示いたします。時代・場所・作家などを超えて、作品を「情景」別に鑑賞することで、そこにある共通性を見いだします。出品作品は、すべて東京都写真美術館の約2万5000点のコレクション作品から選りすぐられた珠玉の名作です。(出品作品数144点)

—18の「情景」—

こどもの集まる場所／出会いの瞬間／たたずむ／風／点景としてのこども／走る、とぶ、ころがる／遊びの世界／学びの情景／紙芝居を見つめる／笑顔／こどもの瞳／赤ん坊／仮面／私生活／どこかの誰か／誰もいない情景／心象風景／大人の中のこども

走る、とぶ、ころがる (出品作品)



左上)マーティン・ムンカッチ タンガニーカ湖の波にかけよる少年たち 1930年頃 中上)●川内倫子「うたたね」より 2001年 右上)●ウィリアム・クライン ブルックリンのダンス、ニューヨーク 1955年 左下)●ジャック・アンリ・ラルティエグ サン・クルー公園でのいとこのシモーヌ 1913年 中下)ウィリアム・クライン ブルックリンのダンス2 1955年 右下)W.ユージン・スミス「移民労働者」より 1953年

こどもの瞳 (出品作品)



左)●大島洋 幸運の町-2 大迫 1979年 右)●エリオット・アーウィット コロラド 1955年

遊びの世界 (出品作品)



左上)土門拳「江東のこども」より ベーゴマ 1953-1954年 中上)●田沼武能 エネルギー革命による中心炭鉱の不足は著しい。住宅はボロボロ 家具もない家で子どもは遊ぶ 1959年 右上)●杵島隆 児童群像 1948年 左下)●長野重一「香港」より 香港・遊ぶ子供たち 1958年 中下)●木村伊兵衛 秋田市仁井田 1952年 右下)熊谷元一「小学一年生」より お客さまごっこ 1953年

■本展のみどころ

① 無限に広がるこどもの捉え方！

本展は「こどもの情景」の展覧会名のとおり、「情景」毎にこどもを捉えた作品を展示します。そこからは、なぜこどもが表現の対象として永遠に作家を魅了し続けるのか、その答えを探すきっかけになるとともに、無限の可能性を感じることができるでしょう。

② 戦前から現代まで、幅広い作品群

本展には戦前～現代まで幅広い年代の作品が出品されます。時代に左右され変わるこどもたちの表情もあれば、どの時代にも変わらない表情もあります。時代を超えて横断的に作品を鑑賞することで、こどもをめぐる表現の共通性を見いだすことができるでしょう。

③ 「こども」の表情を楽しむ展覧会です

1期「戦争とこどもたち」、2期「こどもを撮る技術」展はそれぞれ戦争、技術というテーマに基づき作品を紹介しました。3期目の本展では、写真の表現の成熟とともに、よりバリエーション豊かなこどもの表情をお楽しみいただけます。とにかくこどもの写真をたくさん見たい！という方にもお楽しみいただける内容です。

④ なにげなく並ぶ作品が、名作・名作・名作！

本展は東京都写真美術館の約2万5000点にのぼるコレクションの中から、選りすぐった約140点をご紹介します。となりあう一点一点が見たことのある、また聞いたことのある、まさに写真の世界を代表する著名作家の名作ばかり。さらに当館コレクションが誇る、オリジナルプリントの美しさをご堪能ください。

■担当学芸員によるフロアレクチャー

会期中の第2、第4金曜日16:00より、担当学芸員による展示解説を行います。

※本展覧会の半券（当日有効）をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。

■公式ガイドブックのご案内

「こどもの情景」講談社刊 定価 1,890 円（税込）

「こどもの情景」展（「戦争とこどもたち」、「こどもを撮る技術」、「原風景を求めて」）の各展より代表的な出品作品を掲載した公式ガイドブック写真集です。

※ミュージアムショップ ナディッフ X10（03-3280-3279）にて限定発売

■開催概要

展覧会名 こどもの情景—原風景を求めて Photographs of Children - The child within us

会期 2011年9月24日（土）～2011年12月4日（日）

会場 東京都写真美術館 3階展示室

〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

ホームページ www.syabi.com 電話 03-3280-0099

主催関係 主催＝東京都 東京都写真美術館／協賛＝凸版印刷株式会社／協力＝講談社

開館時間 10:00～18:00（木・金は 20:00 まで）、10月28日・29日は 21:00 まで開館

※入館は閉館の 30 分前まで

休館日 毎週月曜日（ただし月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日休館）

観覧料 一般 500（400）円／学生 400（320）円／中高生・65歳以上 250（200）

※（ ）は 20 名以上団体料金 ※東京都写真美術館友の会会員、小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は 65 歳以上無料 ※10/1 都民の日は観覧無料

交通機関 JR 恵比寿駅東口より徒歩 7 分／東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩 10 分

※当館には専用の駐車場がありません。お車でご来館の際は近隣の有料駐車場をご利用ください。

■お問い合わせ

東京都写真美術館 電話：03(3280)0034 FAX：03(3280)0033

展覧会担当 「こどもの情景」展は 3 会期によって担当学芸員が異なります

戦争とこどもたち：鈴木 佳子 y.suzuki@syabi.com

こどもを撮る技術：三井 圭司 k.mitsui@syabi.com

原風景を求めて：石田 哲朗 t.ishida@syabi.com

監修：金子 隆一 r.kaneko@syabi.com

副担当：藤村 里美 s.fujimura@syabi.com

広報担当 久代 明子 a.kushiro@syabi.com 平澤 綾乃 a.hirasawa@syabi.com

前原 貴子 t.maehara@syabi.com

リリースに掲載されている図版(●印のみ)のデータを、プレス掲載用にご用意しています。
ご希望の方は上記広報担当までお問い合わせください。